

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2070201542
法人名	医療法人 梓誠会 梓川診療所
事業所名	グループホーム あずさ小町
所在地	長野県松本市梓川梓2344 - 1 (電 話) 0263-78-2058
評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307 - 5
訪問調査日	平成21年6月24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北アルプス上高地の麓、梓川地区にあるこのグループホームは、近くに田んぼやりんご畑があり、また、法人の診療所や通所リハビリテーションが隣接して、利用者にとっては素晴らしい環境の中にある。1階はエントランスホール、ダイニングキッチン、フリースペースなど広々とした共有部分で占められ、2階にそれぞれの居室がある。
利用者一人ひとりに担当者をおき、その職員がチームを作って毎日介護するシステムをとっていて、きめ細かな支援や家族との密な連絡を行っている。そして、同法人の診療所と医療連携体制をはかって、利用者や家族にとって安心できるターミナルケアを進めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めて外部評価を実施するにあたり、職員全員で自己評価に取り組んできた。そして、これまで足りなかった「理念、家族への報告、便り、介護計画など」について見直し、改善に努めてきた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2か月に1回運営推進会議を開き、利用者の様子や活動の報告などを行っている。そして、今回の外部評価について結果等を家族へも報告することを話し合ってきた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者一人ひとりに担当者をおき、その職員がチームを作って対応するようにしているの、家族にきめ細かな生活の様子を報告できている。また、意見箱を設けたり、家族会では家族だけで話し合う機会を設けたりして意見や希望が反映できるようにしている。苦情処理委員会を設置し、重要な問題について対応できるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、出来る範囲で参加している。また近くの、保育園、小学校、中学校と交流し、特に小学校とは毎月交流を続けている。法人にはホームページがあり、グループホームは「小町だより」を発行している。さらに、隣接の同法人の診療所、通所リハビリテーションと連携して、地域の交流の場として開いていくことが期待される。

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	9.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,800 円			

(4) 利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4	1	名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梓川診療所、波田総合病院、上條記念病院、川上歯科医院
---------	----------------------------

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念を基に、「その人らしく生きる支援、医療との連携、地域との交流の場、仕事に喜びと誇りを持つ」というグループホーム独自の理念をつくり、毎年運営方針で具体的に話し合っている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の名札の裏に理念を印刷して、いつも意識するように努めている。そして、「利用者一人ひとりがその人らしく生きることができるようにと、日々の散歩や食事などで支援し、心がけている」と語ってくれた職員の笑顔が素晴らしいかった。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、出来る範囲で参加している。また、近くの保育園、小学校、中学校と交流し、特に小学校とは毎月交流を続けている。		法人にはホームページがあり、グループホームでは「小町だより」も発行してきているので、さらに、隣接の同法人の診療所、通所リハビリテーションと連携して、地域の交流の場として開いていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて外部評価を実施するにあたり、職員全員で自己評価に取り組んできた。そして、これまで足りなかった「理念、家族への報告、便り、介護計画など」を見直し、改善に努めてきた。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、利用者の様子や活動の報告などを行っている。そして、今回の外部評価について結果等を家族へも報告することを話し合ってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する連絡会、研修会、講習会などに参加し、担当者と連携してサービス向上に取り組むように心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者一人ひとりに担当者をおき、その職員がチームを作って対応するようにして、家族にはきめ細かな生活の様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族会では家族だけで話し合う機会を設けたりして意見や希望を反映できるようにしている。また、苦情処理委員会を設置し、重要な問題について対応できるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者一人ひとりに担当者をおき、その職員がチームを作って対応しているので、異動や離職があった場合は、チームの馴染みのメンバーが代わって支援でき、利用者のダメージを防ぐことができる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や勉強会については、回覧板を通して連絡し、積極的に参加できるようにしている。また、その結果をミーティングなどで報告している。		グループホーム内で研修計画を立て実施したい、との意欲的な取り組みをさらに充実して、職員の質の向上を目指したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本平グループホーム会に参加し、認知症や感染症などについての情報交換を行っている。また、近隣のグループホームとは、運営推進会議などに互いに参加し、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族が見学に来たときから、担当予定者を交えた相談を行い、徐々に馴染めるように本人との人間関係をつくるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理ばかりでなく、工作や口腔ケアなど一緒にしながら、利用者にポイントやコツなどを教えてもらっている。晴ればれとし、自信をもった利用者の顔を見ると嬉しくなる、と職員が語ってくれた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>食事や散歩などのとき、担当者が利用者と一緒に過ごす時間を大切にし、一人ひとりの希望や意向を聞いて記録し、担当チームで共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>「出来ること探しの介護計画」を目指して、利用者や家族の意向を聞き、それぞれの担当者の意見を基に、職員全体のミーティングで話し合っ、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>不穏になる、言葉遣いが荒くなる、家に帰りたがるなどの状態に至るまでには何か原因があると考え、利用者の内面を大切にして介護計画を見直すようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の診療所が隣接している利点を活かし、医療連携体制をとって、積極的にターミナルケアを行っている。また、21年3月からサービスを開設し、3人の利用者が通ってきている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所するときに家族とも話し合い、同法人の診療所をかかりつけ医として連携をとり、適切な医療を受けることができるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアマニュアルをつくり、利用者や家族、かかりつけ医との話し合いを行い、全員で方針を共有し、ターミナルケアに対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊重を大切にして名前をきちんと呼ぶようにしたり、プライバシー重視し個室には原則名前を掲げないようにしたりしている。また、トイレ誘導の際には言葉かけには特に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日楽しく過ごしてもらいたい、と願って利用者一人ひとりのペースを大事にしている。利用者は、グループホームの周りの田んぼやりんご畑をコースを変えながら、雨の日は2階を上がったり下りたりしながら散歩を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者2・3人のグループでテーブルを囲んだり、ある利用者には職員に付き添ってもらいながら窓を眺めたりして、それぞれが自分のペースで食事を楽しんでいた。そして、自分のできる範囲で、後かたづけなどをしていった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に2回程度、午前から午後にかけて入浴している。車椅子の利用者は2人で介助してもらったり、シャワー浴や隣接の通所リハビリテーションでの特殊浴にしたりしながら、入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが本読みをしたり、歌を歌ったりしてゆったり過ごしてもらうようにしている。また、掃除や洗濯ものたたみなどの仕事を一緒に楽しみながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの農協に買い物に出かけたり、周りの田んぼやりんご畑などコースをいろいろ変えて散歩したり、デッキで日光浴をしたりして、なるべく外で過ごすように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけないケアを理解し、日中は玄関は戸締りをしていない。また、居室には鍵をかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、1回の夜間非常連絡訓練を実施している。居室が2階になっているので、毎週日曜日には非常ベルが鳴ったらデッキに集合するという訓練を行って、消防署の指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週カロリーや栄養バランスを考慮した献立を作成し、利用者一人ひとりの状態に合わせて食事を摂ることができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階がエントランスホール、ダイニングキッチン、フリースペース、デッキなどで広々とした間取りがしてあり、利用者が居心地よく過ごすことができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階の居室には、それぞれの利用者がこれまで使用していた家具などを入れ、使いやすくなっている。また、本人の写真や本人が作った飾りなどが、安らげる空間になっている。		